

令和3年度 第4回福島県行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

令和4年3月8日（火）15:00～15:52

2 場所

杉妻会館4階 牡丹

3 出席者

(1) 福島県行財政改革推進委員会委員

今野順夫 委員（会長）

阿部寿子 委員、安齋康史 委員、伊澤史朗 委員、内山愛美 委員、小野広司 委員、
角田千恵子 委員、角間陽子 委員、今野泰 委員、澁川恵男 委員、橋本正典 委員

(2) 事務局

阿部総務部政策監、小貫総務部次長(人事担当)、高橋広報課長、大野職員研修課長、
金田行政経営課長、本多人事課長、小林市町村行政課長、小柴市町村財政課長、
高橋文化振興課長

4 議事概要

議題「福島県行財政改革プラン（仮称）案について」

資料に基づき事務局から説明し、福島県行財政改革プラン（仮称）案について了承された。
なお、協議結果については、今野会長取りまとめの上、福島県行財政改革推進本部へ助言を
行うこととされた。

概要は、次のとおり。

【伊澤委員】

指標「被災市町村における職員確保の充足率」の目標値を100%に修正したことも含め、
これまでの委員会における意見等を踏まえた計画に仕上げたことに、感謝を申し上げる。

○ 市町村に寄り添った対応について

新年度から、この計画に基づく取組を市町村にも寄り添いながら、しっかりと進めてほし
い。

【安齋委員】

被災地の職員としての自覚や管理職を含めた研修による意識改革を計画に入れていただ
き、感謝を申し上げる。

○ 内部業務のペーパーレス化について

ペーパーレスの指標「コピー用紙購入量（本庁（知事部局）」について、70%の削減は
非常に大きく大変な目標だと思うが、目標設定に当たっての根拠、これをすれば達成できる
というものはあるか。

私の会社は紙を売っている会社だが、コロナ禍でデジタル化が進む中、コピー用紙などは

非常に削減できるということを実感している。

ただ、70%はかなりの数字だと思うので、その根拠を教えてください。

また、私は、県の他の審議会でも委員を務めているが、最近はオンラインの会議が非常に増えており、その場合、事前に資料がデータで届き、その上で紙の資料が郵送で届くというケースが多い。

今年は、総合計画の策定もあり、他の計画も見直しの時期であったため、かなりの量の紙資料が送られてきたが、私の場合はデータがあれば紙資料の送付は不要であり、必要に応じて自分で印刷すればいいと思っている。

紙資料が不要な委員は他にもたくさんいると思うので、送付前に要否を確認するなど、そういう小さなことでも、紙の削減につながると思う。

このような小さな工夫を積み重ねていくことが、やがて大きな改革や職員の意識の向上・改革につながっていくと信じている。

ぜひ、このような小さな工夫の積み重ねや気づきを持ちながら、仕事をしてほしい。

(行政経営課長)

ペーパーレスの指標について、現時点では、7割削減の根拠や取組の方針はないが、県庁内部の事務処理等を調査したところ、6割程度が紙文化、アナログ業務というところが実態としてある。

そのため、令和7年度までに7割削減するという目標値を定めた上で、まずは令和4年度に、職員の行動計画のようなものを策定することを考えている。

それに合わせて、庁内における既存ルールの見直し等に取り組み、令和5～7年度にかけて、目標の達成に向けて削減を進めていきたい。

その中で、先ほど委員からあったとおり、紙資料の要否確認など、各部署、各担当課、各担当の取組を変えていくため、行動指針等により取組を進めて行くことが何より重要だと思うので、令和4年度から取組の内容をしっかりと整理した上で進めていきたいと考える。

【澁川委員】

私の意見はほぼ反映されているということで、特にこれ以上のコメントはない。

全体的にも、各委員の意見を丁寧に分析し、対応されていることに感謝したい。

今回、各界各層の方々が数回集まり、それぞれの立場で意見を出し合い、それがこのように県の施策に反映され、行政サービスが向上し、県民が生活しやすい県政が作られるということで、大変有意義な委員会であった気がする。

○ デジタル変革(DX)について

先日、会津地方振興局主催の「会津地域自治体広域連携シンポジウム」が開催され、私も経済界代表としてパネリストで参加したが、中身は自治体DXであった。

人生100年時代と言われる中、健康で文化的で満足度の高い生活を実現し、またその地域経済が持続的に発展できるような取組を行うためにはどうすればよいか、というテーマであったが、根底には人口減少が挙げられていた。

人口減少により、様々な制度やシステム、プランに支障を来しており、今後、変更を余儀なくされるというのが現状だと思う。

福島県行財政改革プランにも人口減少の影響が記載されているが、なかなか解決策も見つからない人口減少問題は、間違いなく、今後、経済縮小に向かうということにつながり、地域経済、日本経済の根幹を揺るがすような大きな問題であると、改めて認識したところであ

る。

最後になるが、このプランが令和4年度から確実に実行されるよう、県の行政改革推進本部において進行管理を行っていくようだが、我々としても策定にかかわってきたわけであり、一定程度の責任も感じていることから、プランの進捗を見守っていきたいと思う。

【角間委員】

これまでの意見等を丁寧に反映させた形で、よりよい案を作ってください、感謝を申し上げる。

○ 突発的に発生する行政課題への備えについて

資料の3ページ（行財政運営上の課題）にあるとおり、今後突発的に様々な事態が発生してくるという不安定な状況にあるということは間違いないと思う。

厳しい中であっても、突発的な事態にも対応していくといったところを含め、方策や目標等を定められたと思うので、しっかりと進めていただければと考える。

【角田委員】

各委員のこれまでの意見を反映して出来上がったものであり、大変素晴らしいと思う、感謝を申し上げる。

○ 内部業務のペーパーレス化について

先ほどのペーパーレス化について、以前申し上げたように、私たちが行政手続の申請を行うに当たり、申請書や添付書類などかなりの紙の量になっているため、今後、電子申請化が進んでいくことに期待しているので、よろしく願いたい。

【小野委員】

計画全体に関しては、うまく取りまとめていただきつつ、さらに頑張ってくださいというところで感想を2つ述べる。

○ 女性が活躍できる環境について

本日は「国際女性デー」ということで、福島民友として共同通信とタイアップした特集ページを1ページ掲載させていただいたが、行政に関してだけを見ると、都道府県の中で福島県の立ち位置は低い、進んでいないということが見えてくる。

もちろんこの指標が全てではなく、様々な見方ができると思うが、やはり県庁の中、もしくは全体を見ていく中で、女性が活躍できる環境をさらに進めていくためには、女性を管理職に上げるだけでなく、総合的かつ意図的に進めていかないと、他県に比べて遅れたままになると思うので、ぜひ頑張ってください。

特に、女性の方々は、臆することなく、男性社会に切り込んでいただければという期待感である。

○ 多様な主体、市町村等との連携・協働について

柱「多様な主体、市町村等との連携・協働」に関して、民間企業や民間団体との協働が進んでくると、県の行政としての立場は非常によく分かるものの、「県が使う言葉」や「県として」というところで、民間とかみ合わない部分がどうしても出てくる。

県民世論調査については、「分かりやすい言葉を使用する」などに修正していただき非常に良かったが、実際に県と民間が向き合っ業務を行おうとするときに、なかなか共通の言葉を見出

せないケースもある。

これは、県民と県との関わりの中で出てくることであり、(県民の) 皆さんが求めているのは、県がもっと民間の立場になった考え方をした上で、行政のアピールをしっかりと行ってほしいということだと思う。

もう一つは、市町村とのイコール・パートナーについてであり、福島県は強く打ち出し、先行して進めてきた。

しかし、実態としてそれが十分に根付いているかということ、市町村のマンパワー不足もあり、難しいところが相当あると思う。

その中で、実際に耳に入ってくる話は、例えばコロナ禍での対応についても、県にもっとリーダーシップを取ってほしいという話もある。

現場で何が起きているかということ、県職員と市町村職員とのコミュニケーションがうまくとれなかった場合等にあつれきが生じており、それはイコール・パートナーなのかという疑問をよく耳にすることがある。

これは政治的かもしれないが、県としての強く優しいリーダーシップというものが、県、県職員に求められていると思うので、是非、職員一人一人が行政を進める上での感覚として、頭の隅にでも置いていただければと思う。

【阿部委員】

今までの色々な意見をこのような形でまとめていただき、感謝を申し上げる。

計画の位置付けや分かりやすい図などが入ったことが、良かったと思う。

○ 職員への周知及び進行管理について

実際に取り組むのは職員だと思うので、計画の達成に向けて、職員に周知しながら進めてほしい。

また、来年度に取り組んでからの進行管理について、自己点検評価の結果や委員の意見が翌年度の取組にうまく反映できるよう、方法やスケジュールを考えてほしい。

【内山委員】

様々な意見があったと思うが、それらを反映していただき、御苦労も多かったと思う、感謝を申し上げる。

○ 計画や指標の見直し等について

目標や指標について、例えばペーパーレスで言えば、高齢者への対応などでは、紙を用いなければならぬ場合もあると思う。

指標や計画に無理に合わせて、例えば紙を少なくする、残業時間を減らすとなると、歪みが出てくることもあると思うので、無理のないように計画を見直したり調整したりしながら、進めていけばよいと思う。

【橋本委員】

プランは、全体的にまとまって整備されていると思う。

○ 計画や取組に関する情報発信について

プランそのもの、あるいは進行管理はきちんとやっていくということはよいが、県の総合計画をはじめ、その下に位置づけられている計画等もそうだが、このプランも含め、色々な計画を県

民に知ってもらう取組も、進行管理の中でやっていただければと思う。

その趣旨で、今ほど阿部委員からもあったが、県行政の場合、県から情報を発信するというのは難しいかと思うが、ホームページにアップしただけでは見る人しか見ないため、県のこういった取組をこのような形で進行管理も含めてやっているということを、県民に広く知ってもらう、興味を持ってもらうための取組をやっていただければ、ありがたいと思う。

○ 概要資料の作成について

プランそのものについては、全体を例えばペーパー1、2枚で分かりやすくまとめたものを作ることも、検討いただければありがたい。

【今野会長】

行財政改革プラン（仮称）案に対する評価、取組の進め方、進行管理、目標や指標に無理が生じた場合の見直しなどの感想、意見等があったと思うが、福島県行財政改革プラン（仮称）案については、委員会としては了承するという事によろしいか。

また、今後は年度内の策定に向け、県として最終的な調整を行っていくことになるが、これまでのものも含め、各委員からの意見等を最終的な助言として取りまとめることと、プラン策定に向けた調整については、私に一任させていただいてよろしいか。

【各委員】

異議なし。

【今野会長】

それでは、これをもって本日の議事を終了とする。

以上